

# 哲学・思想論叢 総目次（第一号〜第二十号）

## 第一号（一九八二年）

発刊にさいして

高木 勸式……………1

西川如見と清代儒学

柳沢 南……………3

大理教における救済史神話

——新宗教の歴史意識・序説——

島園 進……………17

ヘーゲルの「哲学」と歴史的現実

笹澤 豊……………29

ハイデガーに於ける自然の問題

——『存在と時間』より一九三〇年代にかけて——

岡田 道程……………43

帰納の擁護論再考

神山 和好……………57

VINDICATION VERSUS CORROBORATIONISM

立花 希……………78

彙報……………79

## 第二号（一九八四年）

社会哲学における経験と思考

館野 受男……………1

スピノザにおける様態の

永遠な本質とその観念について

四竈 正夫……………13

ポパーの批判的方法について

立花 希……………25

メソディズムにおける体験と権威

山中 弘……………37

精神諸科学におけるデイルタイの「了解」概念 森本 司……………49  
C・G・ユングの「心理学」の基本特徴について  
——元型の解釈学の基礎研究——  
渡辺 学……………59  
彙報……………71

## 第三号（一九八五年）

神論における無神論

小川 圭治……………1

ポパーと社会主義

立花 希……………15

A・シュッツの「自然的態度の構成的現象学」

星川 啓慈……………29

E・フッサールとの乖離

岸 恭博……………41

「認識論的」良心について

森本 義裕……………61

デイルタイにおける「了解」と「構造連関」

菅野 孝彦……………73

カントにおける純粹直観の問題

卷田 悦郎……………85

ニーチェのソクラテス像

菅野 孝彦……………73

——『悲劇の誕生』及び『人間的な、あまりに人間的なもの』において——

リクール解釈学における疎隔概念の二重性

卷田 悦郎……………85

彙報……………97

## 第四号（一九八六年）

共感について

嶋田 厚……………1

訓釈・王弼『老子道德経注』第三十八章

内村 嘉秀……………11

カントにおける超越論的対象の問題

「純粹理性批判」におけるカントの自由論

—超越論的自由と実践的自由—

ヘーゲルのフランクフルト期における

反省概念について

キルケゴールの原罪論

—人間の根源的狀態の理解として—

自然的世界概念について

フッサールにおける科学の方法の問題

後期フッサールにおける生活世界のアプリオリ性

デールタイにおける「構造」概念

ガタマーとリクール —蓋然性の観点から—

彙報

木村 勝彦……………25

保呂 篤彦……………37

澤味 進……………49

谷口 郁夫……………59

岸 恭博……………71

鈴木 康文……………83

堀 栄造……………95

森本 司……………107

巻田 悦郎……………117

……………131

## 第五号（一九八七年）

随想・比較思想

コンセプトチュアル・レラティビズムと根底的世界像

—ヴィトゲンシュタインのモデルによる考察—

W・デールタイにおける形態学的思索傾向

レッシングとキルケゴール

—飛躍概念を巡って—

デカルトの「力」について

シェーラーの典型論

三枝 充恵……………1

星川 啓慈……………5

森本 司……………17

谷口 郁夫……………29

中村 康子……………41

阿内 正弘……………53

「精神の現象学」における自己意識の

概念をめぐる

リクールの解釈学的過程論 —クレム解釈批判—

「現象学的還元」の思想の源流

彙報

## 第六号（一九八八年）

アレクサンドリアのフィロン「世界の創造」

—モーセによる「世界創造」について—

レッシングとキルケゴール

—歴史的なものに対する関係を巡って—

Positivismus und Idealismus の並置にみる

ニーチェ思想の特質

デカルトの「持続」と「存在」

近代社会とルサンチマン

心理学の課題と哲学

—ウィリアム・ジェイムズの場合—

フッサールの後期思想の立脚点としての「第一哲学」

現代アメリカの歴史的危機と周縁的創造性について

ヘーゲルの「美学講義」とキルケゴール

—「あれかこれか」における「悲劇論」を

中心として—

飛田 満……………63

巻田 悦郎……………75

堀 栄造……………89

……………101

野町 啓……………1

……………19

……………31

菅野 孝彦……………43

中村 康子……………53

阿内 正弘……………65

……………77

良峯 徳和……………89

堀 栄造……………101

木村 武史……………113

……………101

平林 孝裕……………113

……………101

……………113

……………101

# 第七号（一九八九年）

アナクサゴラスの「知性」

廣川 洋一……………1

——目的論とのかかわりにおいて——

アリストテレス「ニコマコス倫理学」第一卷一、二章における倫理学的論究の位置づけの問題

石井 雅之……………17

——プロネーシス論研究への予備的考察——

実践理性の自律と悪の根拠

保呂 篤彦……………29

——I・カント「単なる理性の限界内における宗教」の自由論に関する一考察——

シェリングにおける知的直観……………43

——「哲学と宗教」を中心に——

ジェイムズの感覚論……………55

「アンチロイディプス」におけるスピノチスムス

良峯 徳和……………69

忘れられた女神……………79

——現代における詩人と回想——……………91

第九回学術大会発表要旨……………99

# 第八号（一九九〇年）

「易」思想の倫理学的意義について

高橋 進……………1

プロテイノスにおける「魂の降下」について

金井多津子……………21

カントにおける直観と概念

シェリングにおける墮落論……………33

フッサール「イデーンⅡ」における世界と態度……………45

現代のスピノザ・ルネッサンスが意味するもの……………57

——フランスにおけるスピノザ解釈を中心として——……………69

第十回学術大会発表要旨……………81

彙報……………89

# 第九号（一九九一年）

神概念の類型論的構成

——方法論的序説の試み——……………1

精神の自己意識としての宗教……………17

——ヘーゲル「精神現象学」の宗教論に関する一考察——……………29

シェリングにおける知的直観とその問題点……………41

キルケゴールのトレンデレンブルクに対する関係……………55

——ヘーゲル哲学批判の視座から——……………69

パロールからエクリチュールへの転回……………83

——リクール解釈学の形成過程——……………89

茶の湯における「交わり」について……………91

第十一回学術大会発表要旨……………99

彙報……………109

森本 義裕……………33

高尾 由子……………45

鈴木 康文……………57

浅野 俊哉……………69

小川 圭治……………1

飛田 満……………17

高尾 由子……………29

平林 孝裕……………41

巻田 悦郎……………55

笠井 哲……………69

……………83

……………89

# 第十号（一九九二年）

實在論の二つの顔

藤田 晋吾……………1

—アインシュタインとボーア—

ア・プリオリな実践的総合命題について

保呂 篤彦……………15

—カントによる倫理学の基礎づけに関する

準備的考察—

坂口 恭久……………29

関連論理の立場から見た矛盾規則の非妥当性

自知と行為

—「カルミデス」篇を中心として—

上田 徹……………41

「中心」のシンボリズムの形而上学的意味を

めぐって

リファクトルファシユ……………53

佐藤直方の主静説

—講義・筆記にみえる近世語を手がかりとして—

早川 雅子……………65

第十二回学術大会発表要旨……………77

彙報……………85

第十一号（一九九三年）

ラ・ボエシーの死 —『エッセー』の原点—

石井 忠厚……………1

パラドクスの論理

—『メノン』篇における知識の問題—

上田 徹……………15

—中国哲学解釈をめぐる二つの道—

井川 義次……………27

理性と情動

—スピノザ哲学における合理主義の二側面—

浅野 俊哉……………37

思弁的問題としての超越論的自由？

—「純粹理性批判」における自由概念と道德の

基礎づけの理論に関する一考察—

保呂 篤彦……………49

ニ―チェに於ける現実主義

—ルソー批判を中心に—

鈴木 克成……………61

ニ―チェとディルタイ

—生と歴史をめぐる—

水野 建雄……………73

第十三回学術大会発表要旨……………87

彙報……………95

第十二号（一九九四年）

透視と歪曲 —遠近空間についての試論—

テオグニスとニ―チェ

永野 基綱……………1

親鸞の余仏菩薩觀

小野寺 郷……………13

スピノザにおける〈善惡の彼岸〉

—ニ―チェ／スピノザの同一性と差異—

清水 邦彦……………21

ハーパーマスの「生活世界」概念の位置づけ

浅野 俊哉……………33

リクールの言述理論(1)

—「解釈理論」を手引きとして—

五十嵐沙千子……………45

第十四回学術大会発表要旨……………57

彙報……………81

### 第十三号（一九九五年）

ジョン・ウエスレーと民衆的宗教世界

—『アルミニアン・マガジン』誌の雑録の

検討を中心にして—

『プロタゴラス』の勇氣論

—特にその結尾部分(359a)に即して—

〈他者のための推理〉(parathanunāa)

に関するクマールリラの見解

山鹿素行の「聖学」における「道統」観

ベルグソンの物質論と個体化

—『意識の直接与件についての試論』、「二つの

形而上学講義」および『物質と記憶』における

「質的多数性」の役割—

和辻倫理学の基礎概念「人間」の生成過程の研究

認知のありか

第十五回学術大会発表要旨

彙報

### 第十四号（一九九六年）

文化・文明概念再考

—Intellectus emendatio—試論—

齋藤 博……1

感覚と精神

山崎闇斎の「心」と「敬」

経験認識における超越論的対象の意義

横井小楠の中国観についての一考察

ハーバーマスのガダマー批判

—解釈学論争をめぐって—

法然の初期思想について

第十六回学術大会発表要旨

彙報

### 第十五号（一九九七年）

日本における神道理論の形成

宗教的ヴィジョンと力

鉱山の悪魔

進化論的認識論における主体性の問題

仏教の民間受容と「互酬性の倫理」

—『日本霊異記』を題材として(上)—

第十七回学術大会発表要旨

彙報

### 第十六号（一九九八年）

運動は連続か非連続か

三枝 充應……1

名須川 学……17

魯 学海……29

榊矢 桂……39

陳 衛平……53

五十嵐沙千子……61

奈良 博順……75

87

95

広神 清……1

海山 宏之……19

谷口 智子……33

森本 司……45

池上 良正……55

71

77

原理と忠告

—セネカ書簡集におけるストア派の法規論— 上田 慎一……9

萬斯同の廟制説 松崎 哲之……21

フッサール「現象学的還元現象学」を巡って 鈴木 康文……29

「第五省察」におけるフッサールの自我概念 —他我構成論における「義性をめぐって」— 小林 秀樹……41

ボルノウの哲学的人間学の基礎づけ 飛田 満……51

レーヴェンハイム・スコレムの定理と その哲学的問題 中村 正利……63

心と機械 宇野 光範……75

鎮魂婦神の意味世界 —統合的解釈の試み— 望月 幹巳……87

身体—宇宙の対応の宗教現象学的構造 —宇宙創造神話における原初的存在の

巨人イメージと成長のモチーフについて— 久保田将之……99

主体とエクリチュール —日本思想への一視点— 谷川多佳子……113

第十八回学術大会発表要旨……127

彙報……131

第十七号（一九九九年）

スピノザの「形而上学的思想」について 工藤 喜作……1

宗教における鏡 —日本の鏡を事例として— 井手 直人……11

「理理相即」と「理理円融」—「花厳止観」論攷— 大竹 晋……23

チャンドラキールティの縁起解釈についての一考察

—ナーガールジュナの諸著作との関連について— 永崎 研宣……35

浅見綱斎の「生き身」の思想をめぐって —近世儒学における身体観の一考察— 早川 雅子……45

量化をめぐるラッセル ウィトゲンシュタインの 橋本 康二……59

キルケゴールへのまなざし —「倫理的なもの」をめぐって— 河上 正秀……71

第十九回学術大会発表要旨……83

彙報……89

第十八号（二〇〇〇年）

プロティノスにおけるヒュポスタシスの意味 —発出とのかかわりにおいて— 田子多津子……1

大切なものは目に見えないか？ —パトナムの形而上学的実在論批判— 中村 正利……11

朱子学派における羅整菴の位置 「名」と「像」の葛藤 殿 錫仁……23

—「偶像崇拜」の問題をめぐって— 谷口 智子……35

撰論学者 智儼 大竹 晋……49

Cosmic Rhythm and the Aztec Twin Temple 岩崎 賢……94

Reason and Revealed Law in Mutazilite Ethics 塩尻 和子……106

第二十回学術大会発表要旨……61

第二十回大会までの歩み	68
彙報	75

## 第十九号 (二〇〇一年)

聖俗境界の彼方へ	井門富二夫	1
— NPOとしての現代宗教集団 —		
ライブニッツにおける言語	清水 洋貴	21
「人間の主観性の逆説」		
— フッサール現象学における自我概念をめぐって —	小林 秀樹	35
我々の先祖は悪魔なのか?		
— アンデスの先祖祭祀と改宗の解釈学 —	谷口 智子	45
カントにおける根本悪の問題		
— 信と知の切り結ぶところ —	木村 勝彦	59
第二十二回学術大会発表要旨		77
彙報		81

## 第二十号 (二〇〇二年)

ヤコビー「第七付録」についての考察	工藤 喜作	1
ハイデガーにおける死と自己の問題		
— 「存在と時間」を中心に —	魚谷 雅広	13

## 「神に似ること」の様相

— プラトン「ティマイオス」を中心に —	土井 裕人	25
世阿弥の「平家物語」受容について		
— なぜ能「知盛」は存在しないのか —	佐々木香織	37
瑜伽行派文献と「大乘起信論」	大竹 晋	49
感覚と志向的意識		
— 能動的志向性と受動的志向性の同時的作動 —	佐藤 幸三	63
「心象スケッチ」と詩		
— 宮沢賢治「春と修羅」における宗教言語 —	佐藤 郁之	73
創立二十周年記念シンポジウム		87
哲学・思想論叢総目次 (第一号—第二十号)		123
第二十二回学術大会発表要旨		131
彙報		135